トマトの栽培

栽培のポイント

●強い光を好むので、日当たり、風通しのよい畑を選びましょう。
●雨で病気（灰色かび・疫病）がでやすいので、雨除け栽培をしましょう。
●基肥の窒素分は少なめに施しましょう。
●病害予防と安定的な栽培には、マルチ栽培がお勧めです。
●根が深く張るので、できるだけ深く、広く土を耕し、堆肥も充分に施しましょう。

品種

大玉、中玉、小玉の3つの大きさがあります。好みに合わせて選びましょう。

作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
トマト（露地）					●	●	■	■	■			

（●定植、■収穫）

栽培管理

土づくり

植え付け2週間前までに10㎡あたり、完熟堆肥40kg、苦土石灰1.5kg、化学肥料1kgをまいてよく耕します。肥料は控えめのほうが作りやすいです。

植え付け

植え付け適期は、第1花房が1～2花、開花した頃です。早すぎると成長が旺盛になり、逆に遅すぎると果実のつきが悪くなります。

植え付け前日には、充分にかん水をしておきます。

植え付け当日は、まず植え穴を掘ります。苗を鉢から抜き取り、少し浅植えになるように植え、回りの土となじむ程度に水をかけます。トマトの実はみな同じ方向に着くので収穫しやすい方向に向けるようにしましょう。苗と苗の間隔は、50cm前後とします。（図1）

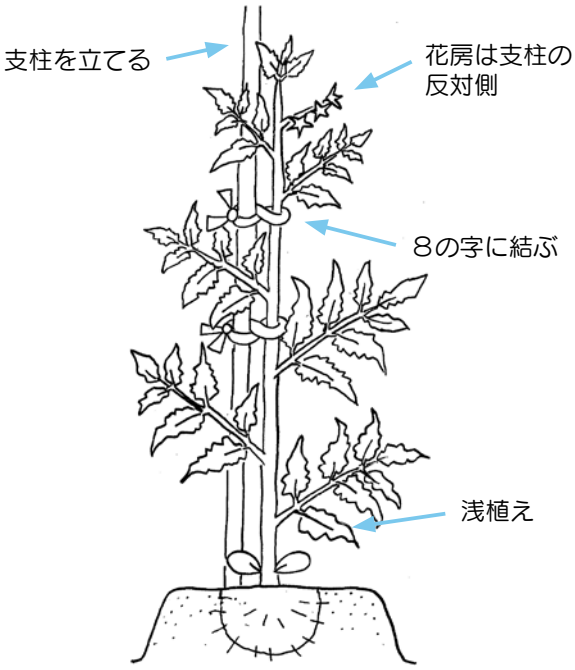


図1　植え付け

わき芽の除去

各葉の付け根からわき芽が伸びてくるので、小さいうちにかきとります。（図2）

最後に収穫目標とする段数の花房が確認できたら、花房の上の葉を2枚残し、芯を止めます。（図3）

図2　わき芽の除去

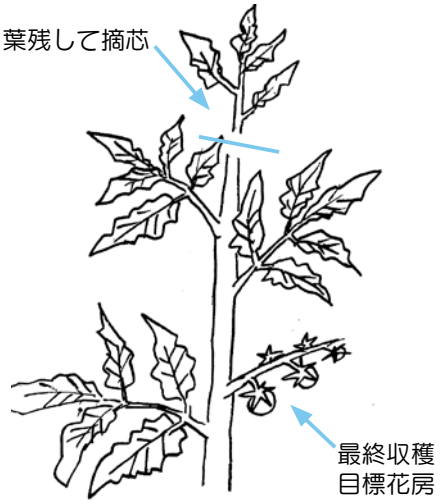


図3　摘芯

追肥

第1花房の実がピンポン玉ぐらいになったころ、1回目の追肥として1㎡あたり60gを通路に施します。実のなっている間は20日おきに追肥します。

収穫

トマトは温度で熟すので、日当たりをよくすると、早く熟します。全体に色づいたら収穫しましょう。

赤くしてから収穫するほど、味がよくなります。

救命率向上を目指して

愛媛県ドクターヘリと合同訓練を実施

2月1日から松山市を拠点に愛媛県ドクターヘリが運航を開始しました。

上島町消防署では、2月13日(月)に、ドクターヘリとの円滑な連携を図ることを目的に出動要請から傷病者搬送までを想定した実動訓練を実施しました。

ドクターヘリへの収容

訓練では、消防署からのドクターヘリ出動要請、離着陸場の選定と安全確保、無線交信、着陸誘導、傷病者引継ぎなど、ドクターヘリとの連携に必要な手順を確認することができました。また、訓練終了後には各地区で機体の見学会を行い、見学者からは多くの質問もあり、興味深い様子がうかがえました。

訓練後の機体見学

今回の訓練で得たことを活かし、重症傷病者に対して、迅速にドクターヘリと連携を取ることで、救命率と予後の向上に繋げていけるように努めてまいります。

愛媛県ドクターヘリ

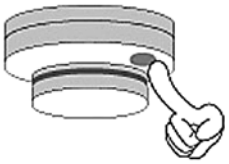
住宅用火災警報器の点検をしましょう

住宅に設置している住宅用火災警報器はしっかり点検できていますか？適切に機能するには、日頃からの適切な維持管理が重要です。1ヶ月に1回を目安に作動点検をしておきましょう。また、古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を正しく感知しなくなる可能性があります。大切な命を守るため、10年を目安に住宅用火災警報器を交換しましょう。

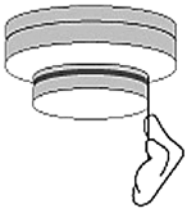
不明な点については、上島町消防署までお問い合わせください。

点検の方法

ボタンタイプ



ひもタイプ



○正常な場合

『ピー　ピー　ピー　火事です』と鳴ります。
※警報音はメーカーによって異なります。

×作動しない場合

電池が正しくセットされているか確認してください。電池が正しくセットされているのに鳴らない場合は、電池切れか故障です。電池か住宅用火災警報器を交換してください。

自らの手で地域を守りましょう

上島町では、消防団員を募集しています。

上島町消防団員の人数

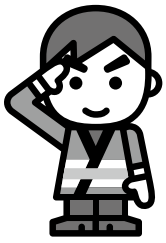
定員390名（2月28日現在374名）

入団条件

町内に居住または勤務している18歳以上の男女

業務内容

町内で発生した火災、自然災害活動、火災予防の広報などです。入団に関する質問などがありましたら、上島町消防署にお問い合わせください。



平成29年２月出動件数

摘要	火災	救急
弓削	0	21
生名	0	6
岩城	0	9
魚島	0	0
その他	0	0
合計	0	36
平成29年累計	0	96

平成29年２月28日現在

放水訓練の様子

消防団員による防火啓発活動の様子